

B. 死

死の瞬間

「どうしたんかいー」

泣き叫ぶ耳の奥の音

となり組の心 者の心 烈しい異状

立ち昇る煙の 樹木あふる

はたけの向に 歩み

走り狂う影

あ

にげ

はわあ子 腰から

崩れ 鉄瓦倉庫の

燃えてい

作が

背中を打つ 刺した

熱風が

袖で肩で火にちる

煙のちかみつかん

水の中

もう頭

水をかけよ 衣服が

生けおつてい

生けおつてい

材木 釘 硝子

とつて瓦

壁

走つては倒れ

踵は焼け

腕は萎え

背中に這はすれこいのは

深ける 鉛くーい

すむ火かか

電柱も壁土も噴く

火と煙

の海

「ヒコちゃん ヒコちゃん」

剣太さま、呼ぶ

にじむ泪

「あ、けさの別れのさいごなつたー」

腹這い いびき 煙の中

いびき 出ん 来たのたろう

牛と牛をフなす

盆おどりのように

ぐよー 回さ ばたかの

むすめたち

つまづき 外れ 環の

瓦の下から

肩を打つ 燃え 迫り 熱気

のなう つ 悲鳴が する 声

送ける 夕刻の 雨の ように

膝を ふくう せむ

あかい肉塊を

足首をつむむ 脚

こころを 眼を けがさ けふ

白く 煮え たる 首

手で 踏ん ぬ

髪の色 脳漿水

熱い風 熱い煙 あつい瓦礫

あつい道路

あつい 煙

あ、もう

進めめ

くらくらい 心こりや 産で

つらな 目

どつと 腕が折れ 腕の 崩れ

あ、

どうしたことを

どうして わたしは 死な 道 げんや

こんど こそ

「ヒコちゃん ヒコちゃん」

剣太さま、呼ぶ

にじむ泪

「あ、けさの別れのさいごなつたー」

腹這い いびき 煙の中

いびき 出ん 来たのたろう

牛と牛をフなす

盆おどりのように

ぐよー 回さ ばたかの

むすめたち

つまづき 外れ 環の

瓦の下から

肩を打つ 燃え 迫り 熱気

のなう つ 悲鳴が する 声

送ける 夕刻の 雨の ように

膝を ふくう せむ

あかい肉塊を

足首をつむむ 脚

こころを 眼を けがさ けふ

白く 煮え たる 首

手で 踏ん ぬ

髪の色 脳漿水

熱い風 熱い煙 あつい瓦礫

あつい道路

あつい 煙

あ、もう

進めめ

くらくらい 心こりや 産で

つらな 目

どつと 腕が折れ 腕の 崩れ

あ、

どうしたことを

どうして わたしは 死な 道 げんや

こんど こそ